

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： **コラコラ (Coral Collabo)**

上位関連計画にみる地域の将来
 ○第5次石垣市総合計画 基本構想（令和4年3月）（計画期間：令和4年度～令和13年度）
 ・2030年のあるべき姿（抜粋）
 自然と文化を愛し、創造する市民の創出（環境負荷の少ない社会資本の追求、文化保全）
 連帯と協働の精神にささえられた意欲ある市民の創出（持続可能な経済活動の推進、資源の循環）

②具体的な取組

- ローカル経済事業（コラコラ認証の推進、排水浄化の取り組み、石垣型林業の構築）
- 資源循環事業（コンポスト普及・提案、MMO（マイボトルで水おかわり）、プラスチック用品の削減、不用品を資源として循環、海洋プラスチックアップサイクル、古い建物の修繕・マッチング）
- 市民啓発事業（コミュニティでの助け合い、食育活動、市民学校）

①ありたい未来

ゴミはゴミにならずに資源として循環し、人的な資源も循環することで、島全体がつながりあう「巡る島」
 「人々の充足感」と「自然環境の再生」が両立する社会が、私たちの目指す地域の姿

ローカル経済事業、資源循環事業、市民啓発事業、これら三つの事業の取り組みが連携することで、環境的に持続可能で、社会的につながりあい、精神的にも充足した地域環境が実現することが目標。
 人と地域がつながり、それにより人々の生活がより豊かで満たされたものになり、物や金銭にとらわれず、共有することで豊かになれる社会を目指す。また、環境に配慮した事業に経済が巡ることで、人々の意識の転換と、自然の再生、健全な循環が生まれる事を期待する。

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値 2022年度末	目標値 (2023年度末)	実績値 (2023年度末)	単位
環境	ローカル経済事業	コラコラ認証取得事業者数	15	15	21	者
	資源循環事業	個数	78	50	124	個
	資源循環事業	給水所の件数	40	30	40	件
	資源循環事業	ペットボトル無し自販機	1	5	1	件
	資源循環事業	葉っぱによる代替品開発	0	1	1	件
経済	資源循環事業	大 ☆ ぶつぶつ市開催回数	13	10	24	回
	資源循環事業	大 ☆ ぶつぶつ市参加人数	800	300	1,500	人
社会	市民啓発事業	食育授業開催回数	3	5	5	回
	市民啓発事業	市民学校の口座開設数	0	2	1	回

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 2023年度末	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	ローカル経済事業	コラコラ認証取得事業者数	21	15	2030年度	100	者
	ローカル経済事業	パイオジオフィルター設置件数	1	2	2030年度	5	件
	ローカル経済事業	林間放牧実施区域数	0	1	2030年度	3	件
	資源循環事業	コンポスト個数	78	50	2030年度	300	個
	資源循環事業	生ごみ焼却削減率	—	10	2030年度	100	%
	資源循環事業	ペットボトル販売本数の削減率	—	0	2030年度	100	%
	資源循環事業	給水所の件数	40	30	2030年度	300	件
	資源循環事業	ペットボトル無し自販機や店舗、売り場の件数	1	5	2030年度	100	件
	資源循環事業	葉っぱ包装の利用件数	2	3	2030年度	30	件
経済	資源循環事業	大 ☆ ぶつぶつ市開催回数や来場人数	24	10	2030年度	180	回
	資源循環事業	大 ☆ ぶつぶつ市参加人数	1,500	300	2030年度	17,600	人
	資源循環事業	新素材商品開発の達成	1	1	2030年度	5	件
社会	資源循環事業	古い建物修繕事例やマッチング件数			2030年度		
	市民啓発事業	地域通貨やまちのコインへの参加者増加率			2030年度		
	市民啓発事業	オーガニック給食の提供日数又は食数			2030年度		
	市民啓発事業	オーガニック栽培を開始する農家件数			2030年度	50	件
	市民啓発事業	食育授業開催回数	5	5	2030年度	15	回
	市民啓発事業	市民学校の講座開設数	1	2	2030年度	30	回

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

短期的には、コラコラ認証事業を進めながら、ありたい未来の理解者・応援者・連携者を増やしつつ、コンポストの普及や大 ☆ ぶつぶつ市など、地域住民を対象とした活動も実施する。このような事業で実績を積み重ねながら、プラットフォームの規模を拡大し、各種事業の実践・展開に結び付ける。長期的には、ローカル経済事業、資源循環事業、普及啓発事業から派生する各種事業が地域内で安定的・継続的に実践されることで、人々の意識や行動が変わり、その取り組みを応援する人々が増え、様々な事業が生まれ、地域課題が解決するといった循環を生み出せると考えています。